

プロジェクト概要

プロジェクト名：ベンチャー企業等による新エネルギー技術革新支援事業 (新エネルギーベンチャー技術革新事業)

研究開発の目的

・中小・ベンチャー企業等が有する、新エネルギー等に関する潜在的技術シーズを幅広く発掘するため、FS調査や事業化に向けたコンサルティング等の人的サポート等も活用しながら、技術開発段階から事業化段階まで一貫して支援する事業です。

・本事業により、新エネルギー等に関する新たな技術の開発・実用化が促進され、更なる新エネルギー導入の促進が図られるとともに、今後の成長分野である、新エネルギー分野における起業の増加、新産業の創出も期待されます。また、イノベーション・コースト構想の推進につながる新エネルギー分野の技術開発や実用化・実証研究については、支援を強化して取り組みます。

・対象技術分野は、エネルギー基本計画、新成長戦略等に示される下記の分野です。

①太陽光発電、風力発電、水力発電、地熱発電、バイオマス利用、太陽熱利用、その他未利用エネルギー分野。

②再生可能エネルギーの普及、エネルギー源の多様化に資する新規技術(蓄電池、エネルギーマネジメントシステム等)。

プロジェクトの規模

・事業費総額(平成29年度)	18.5億円(予定)
・NEDO予算総額(平成29年度)	18.5億円(予定)
・実施期間	平成19年度～

研究開発の内容

(1)フェーズA(フィージビリティ・スタディ)(平成22年度採択以降)

技術シーズを保有している中小企業等(ベンチャー含む)が、事業化に向けて必要となる基盤研究のためのフィージビリティ・スタディ(FS)を、産学官連携の体制で実施する。

(2)フェーズB(基盤研究)(平成22年度採択以降)

事業の実現可能性が高いと評価される中小企業等(ベンチャー含む)が、プロトタイプを試作及びデータ測定等、事業化に向けて必要となる基盤技術の研究を、産学官連携の体制で実施する。

(3)フェーズC(実用化研究開発)(平成22年度採択以降)

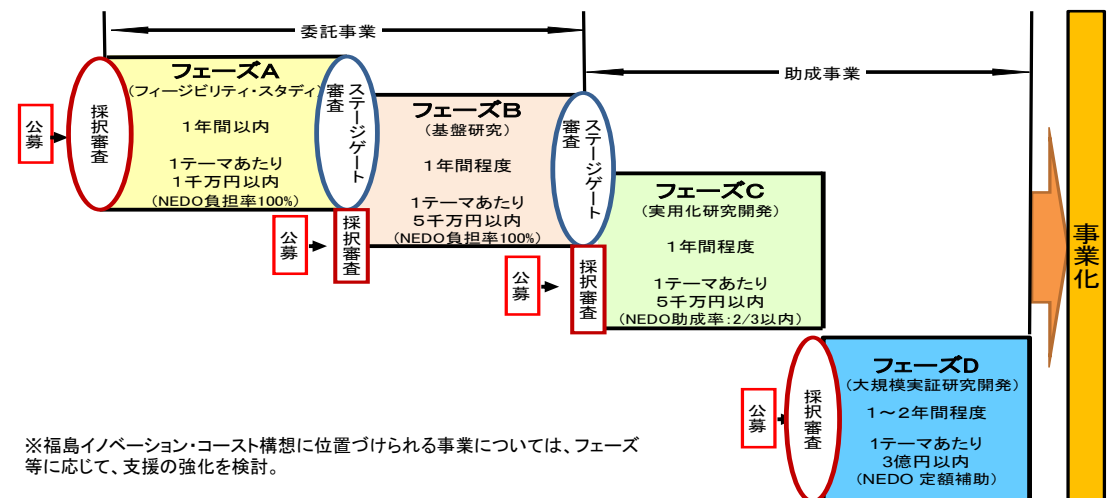
事業化の可能性が高い基盤技術を保有している中小企業等(ベンチャー含む)が、事業化に向けて必要となる実用化技術の研究、実証研究等を実施する。

(4)フェーズD(大規模実証研究開発)(平成28年度採択以降)

事業化のリスクが高いものの、基礎となる技術が確立された極めて有望な技術を保有し、それを実証する能力を有する中小企業等(ベンチャー含む)が、必要に応じて自治体や大企業等と連携して、事業化に向けた大規模な実証研究を実施する。

※フェーズDでは、自治体からの推薦書の提出が必須要件とする。

事業イメージ



※福島イノベーション・コースト構想に位置づけられる事業については、フェーズ等に応じて、支援の強化を検討。

詳細は公募要領等をご参照ください